

目指す児童像 『自分で考え、よりよい判断ができる子ども』

2学期の終わりと3学期に向けて

長いように感じた2学期も終業式を迎えました。子どもたち一人一人の2学期の振り返りは様々かと思えます。しかし、多くの活動をする機会があり、その中で経験値を積み重ね、2学期の始まりより少し成長した自分を実感できていればと思っています。

さて、年末年始を過ぎると、今の学年も残りわずかとなります。どのように今の学年を終え、次の学年や学校に向けて、どのような気持ちをつくっていくか冬休みの期間中に少し考えておくと、学年末から次年度に向けてのモチベーション向上につながるものと思えます。

また、各種感染症が流行しやすい時期でもあります。予防や早めの治療で、3学期の始業式に子どもたちが元気に登校してくれることを望んでいます。



年越し

私が小学生の頃であった約50年前の年末年始は、1年の中でも唯一夜更かしができる大晦日、手書きの年賀状をクラスの友達に書いたり家族でもちつきしたりした年末、両親の実家に行ってお年玉をもらう元日、お店は三が日は休み（コンビニはまだありません）、学校の運動場に行ってお餅揚げやコマ回しで遊ぶ、テレビは普段はやっていない2時間の特別番組など非日常のオンパレードでした。

今は年中無休で開いている店舗、2時間どころか3時間の特別番組が珍しくないテレビ番組、ネットでは多くの見放題コンテンツが提供され、年始の挨拶はメールでなどかつての非日常は日常となってきています。

しかし、生活スタイルは変わっても、この時期に親族が集まったり、家族で年越しをしたりと、子どもたちにとっての変わらない非日常も残っているものだと思います。

年末年始の過ごし方は個人や家庭で様々だと思います。それでも子どもたちが我が国の文化や習わしを知る良い機会となればとも思います。

干支の話

午前、午後、正午といえば、時間帯を表す言葉ですが、共通している文字があります。それは「午」（牛ではありません）です。これは「うま」と読みます。そして昔、昼の12時を午の刻と言っていました。ですから「午の刻の前で午前」「午の刻の後で午後」「正に午の刻で正午」なのだそうです。

ちなみに諫早市には十二支公園というものがあります。「午」の公園は小川町にあるそうです。また、来年の干支である「巳」の公園は小野地区の宗方町にあるそうです。干支にまつわる色々な話を調べてみると、新しい発見がありそうです。

みなさま、よいお年をお迎えください